

---

写 真 図 版

---



▲89A区全景（西から）

発掘調査区の左手に拾石川が蛇行して流れている。やがて、写真上方右手で、三河湾へと流れ出る。

発掘調査区手前にあるのは、Ⅰ期のNR01。そのすぐ上には土器植墓が分布する。

写真図版 2



▲89A区全景（東から）

多数の土坑は時期不明。中央の集石はV期の遺構SK189である。



▲89B区全景（西から）

II期の環濠SD01からSD05が見える。写真上方が集落の内側に当たる。直角に曲がる溝SD06はV期の遺構である。



▲90A区全景（東から）

発掘調査区を横断している3条の溝SD09からSD11はⅡ期の環濠であり、写真上方が集落内部である。遠方に幡豆山塊の山並が見える。



▲90B区全景（西から）

数条の溝はいずれもV期の遺構で、旧河道NR02へと注いでいる。調査区の向うでは、JR東海道本線を跨ぐ橋脚工事が進められている。



▲90B区全景（東から）

手前に旧河道NR02があり、V期の溝SD12からSD19が流れ込んでいる。竪穴住居はⅡ期からⅣ期のもの。

89A区 ►  
NR01検出状況  
(南から)



89A区 ►  
NR01 (北から)



90B区 ►  
縄文時代中期土器  
出土状況

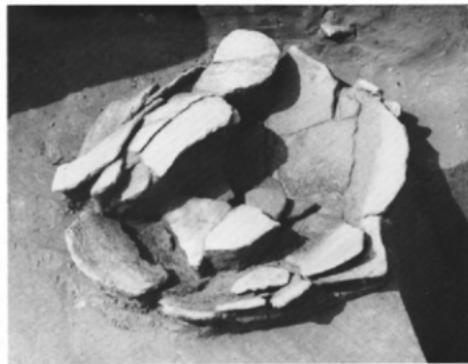




◀89A区  
SZ06検出状況（南から）

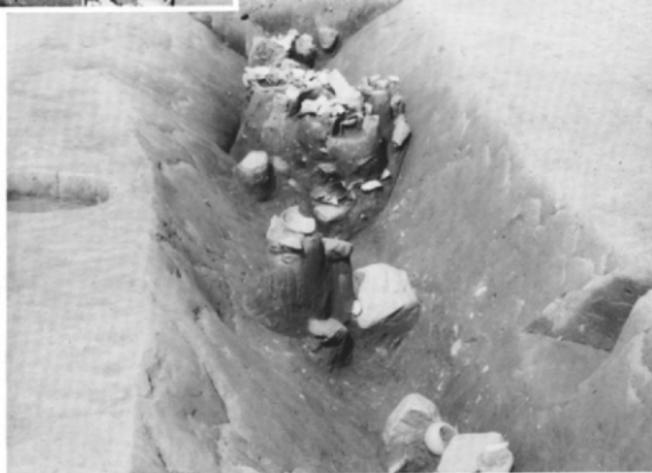
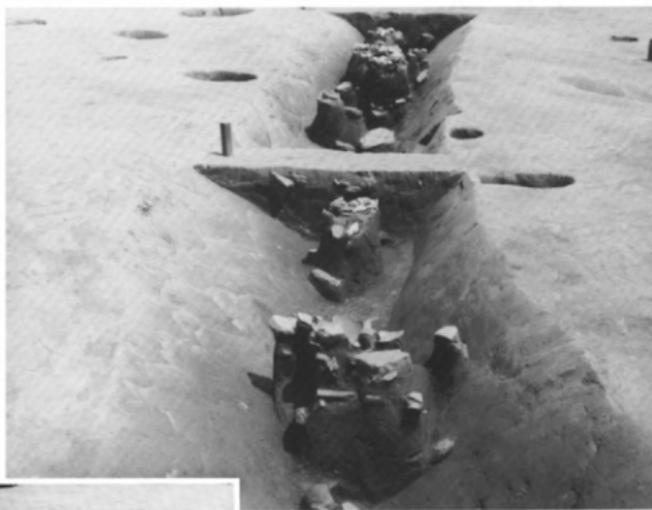


◀89A区  
SZ07検出状況（南から）



▲89A区  
SZ07出土状況（南から）

▼  
89A区  
SZ02出土状況（南から）





◀89B区  
SD02弥生土器出土状況  
(北東から)



▼89B区 SD04 (北東から)



▼89B区 SD05 (北西から)

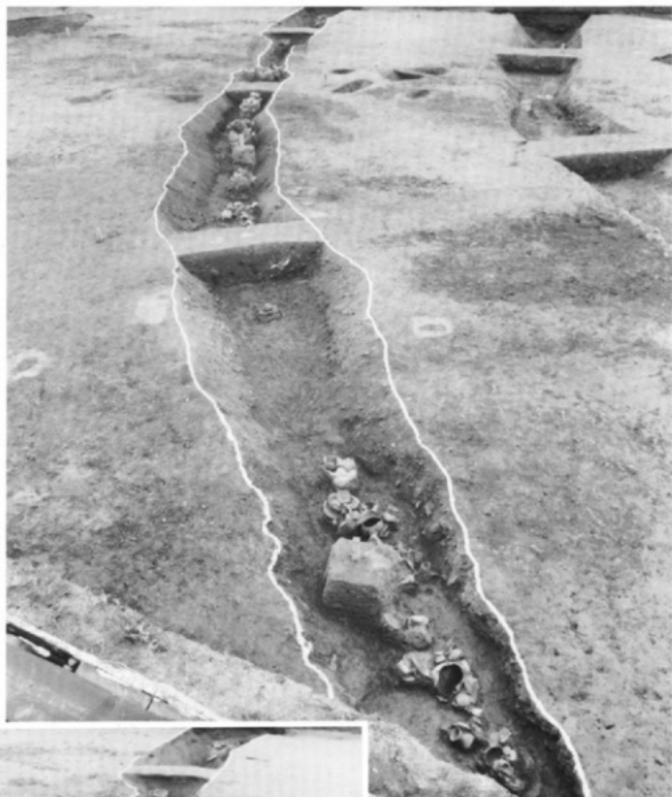




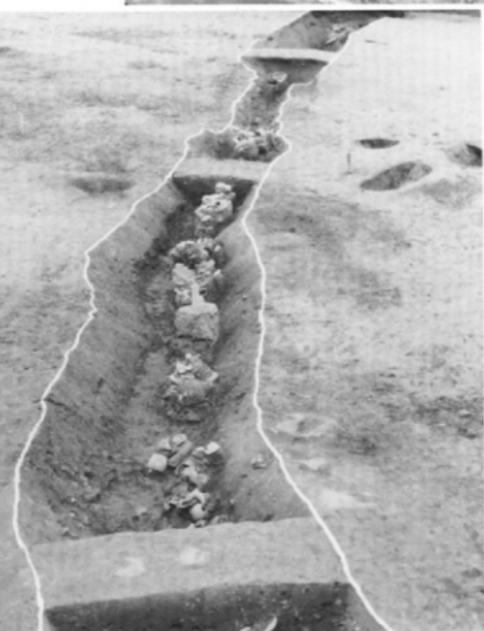
▲90A区  
SD08～SD11検出状況  
(南西から)



90A区 ▶  
SD08検出状況  
(南から)



▲90A区  
SD10弥生土器出土状況  
(南から)



◀90A区  
SD10弥生土器出土状況  
(南から)

90A区  
SD08・SD09全景  
(南から)



90A区 SD08 (南から)  
▼黒色土層上面から掘り込まれて  
いることがわかる。





▲90A区 SD08～SD11 検出後（南から）

▼90A区 SD08（北から）



▼90A区 SD08（南から）





90B区 ▶  
SB05～SB08検出  
状況（西から）

▼90B区 遺構分布状況（東から）





◀ 90B区  
SB10 (南から)

◀ 89B区  
SB03 (北から)

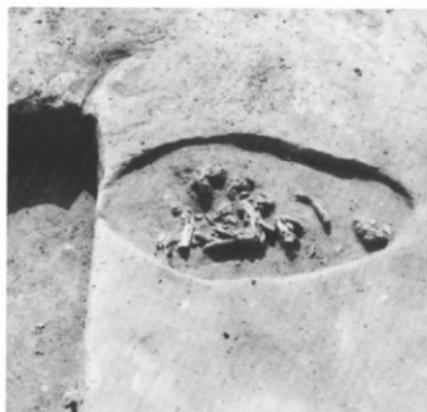
▲ 89A区  
SB01 (南から)

89A区  
▼SB02 (南から)





▲89A区 SK189（南から）



▲89A区 SK70（東から）

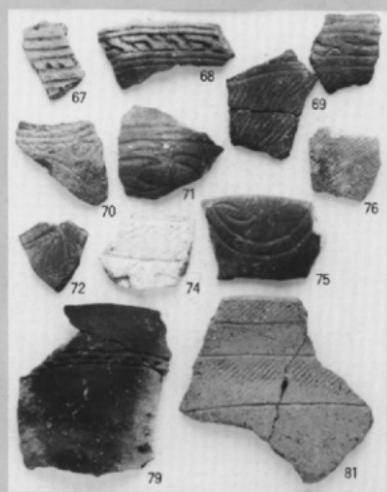
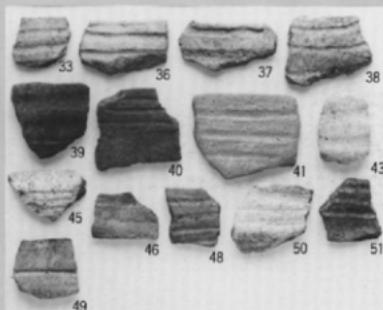
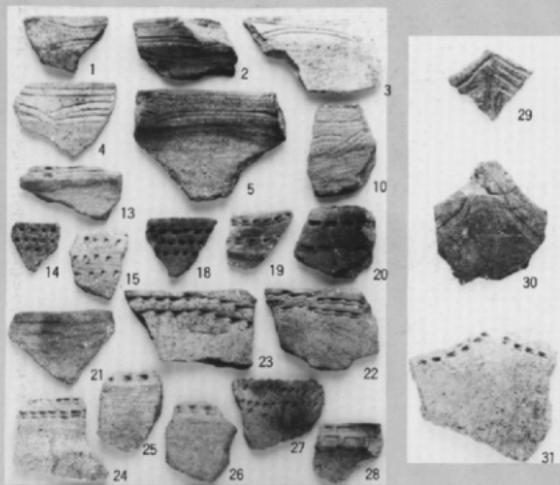
▼90B区 V期の満全景（東から）

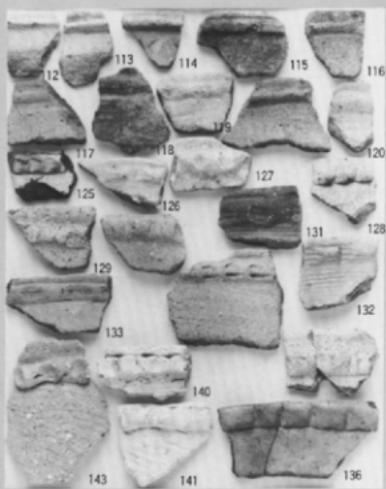


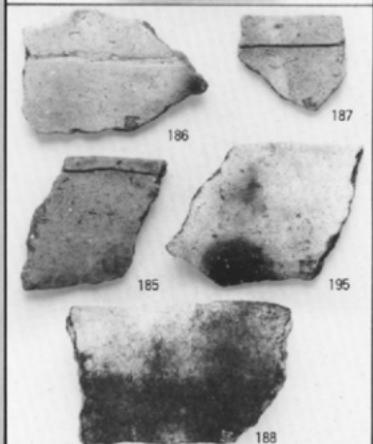
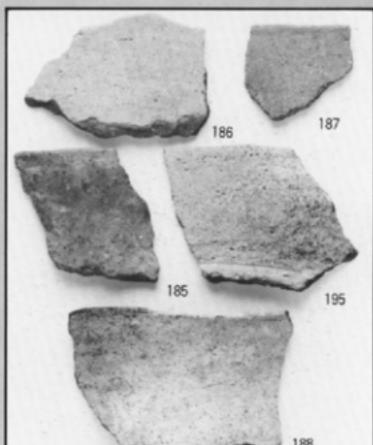
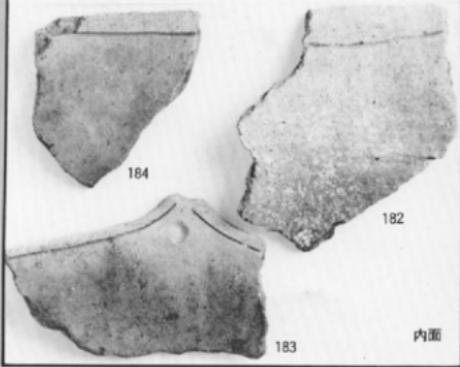
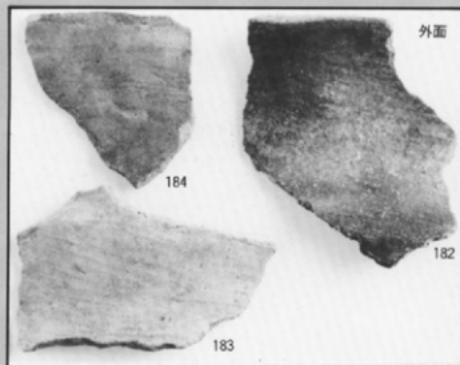
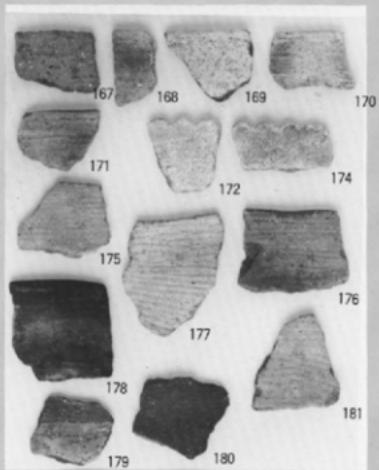
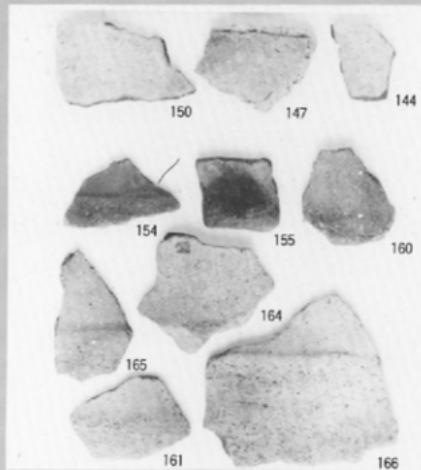


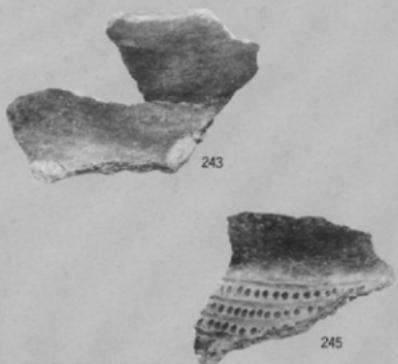
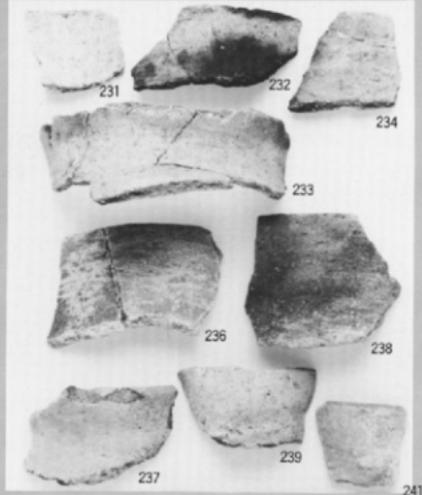
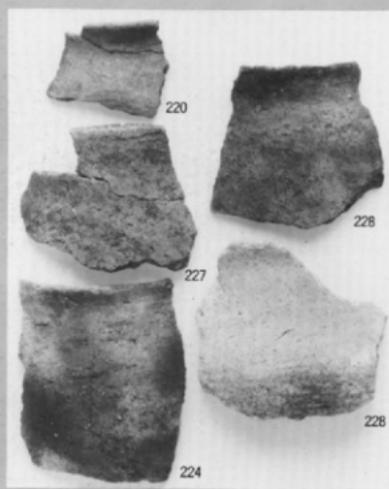
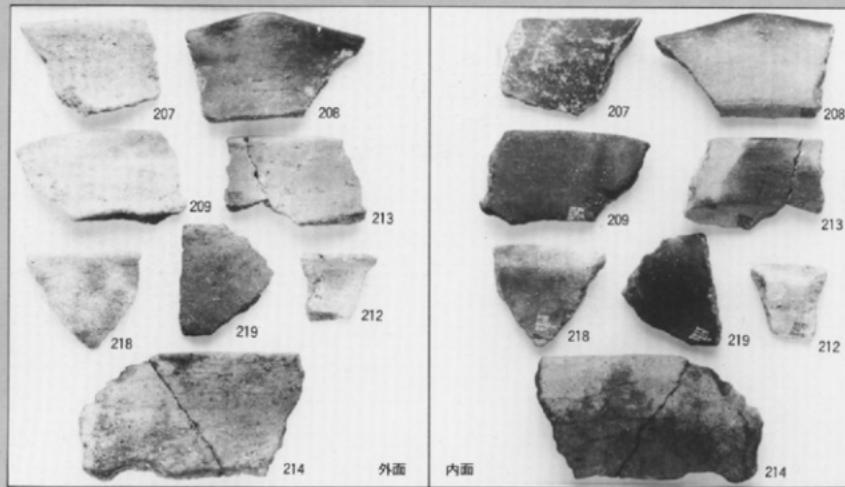
◀89B区  
SD06検出状況  
(東から)

▲89B区  
SD06拡大写真  
(北東から)











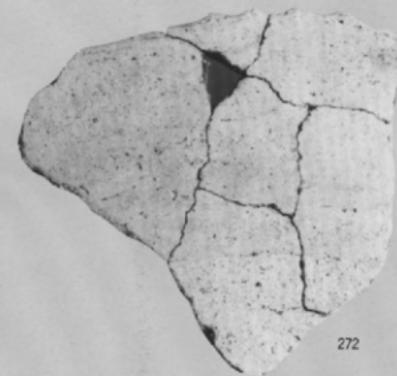
256



257



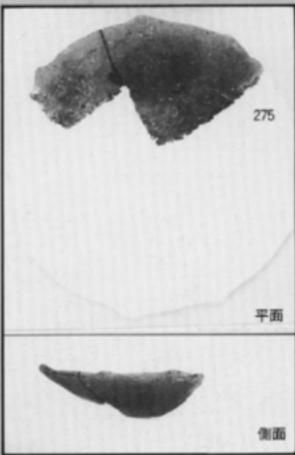
258



272

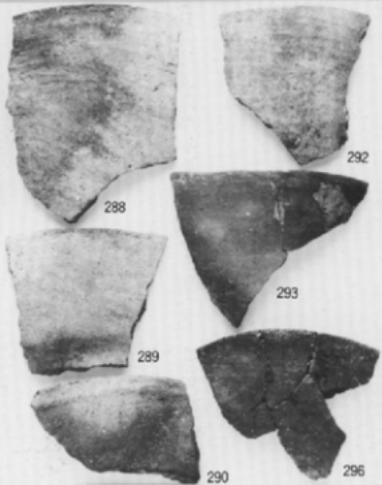


278



平面

側面

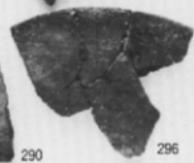


288

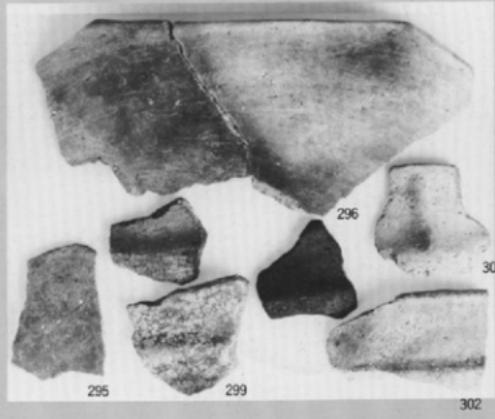
292

293

289



296



295

299

296

301

302



304



311



320



323



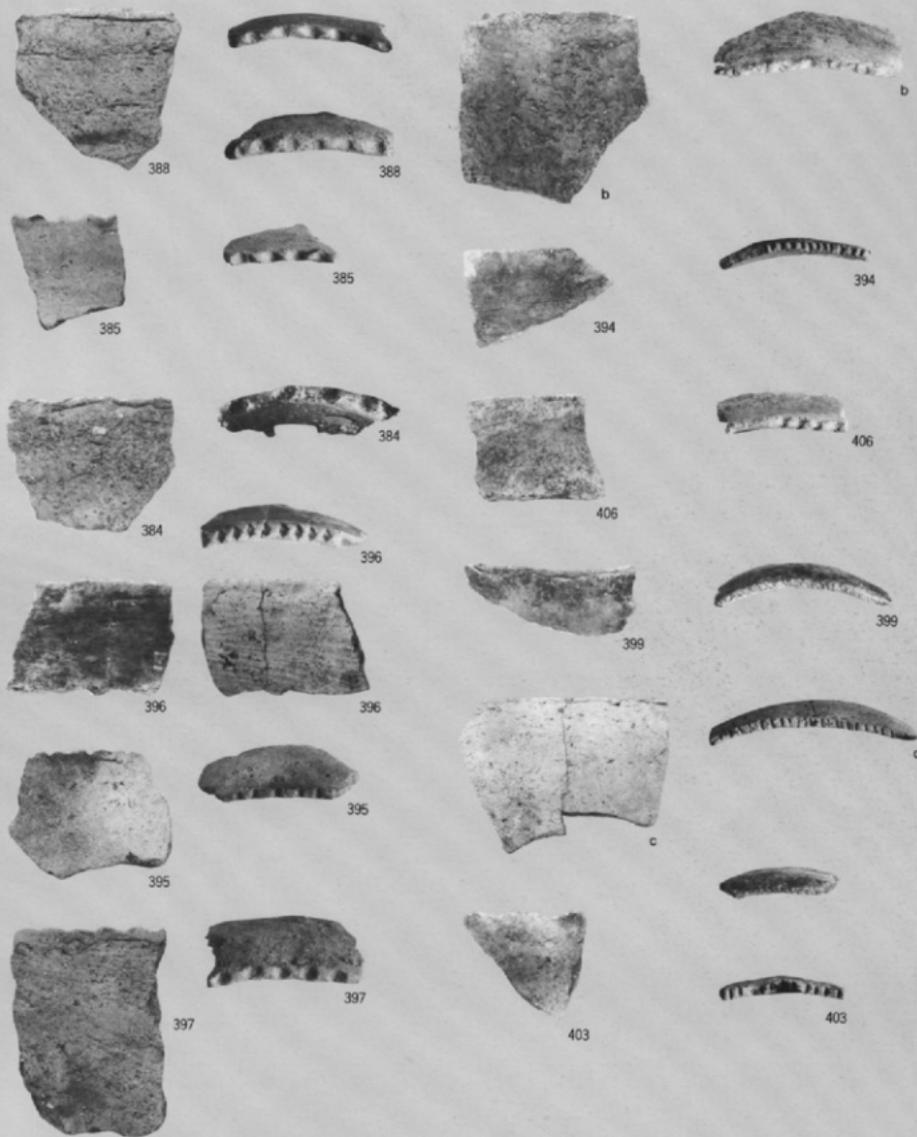
324

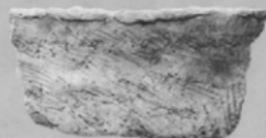


325



326

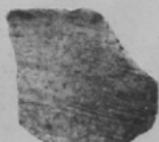




387



386



404



389



d



404



387



e



f



383



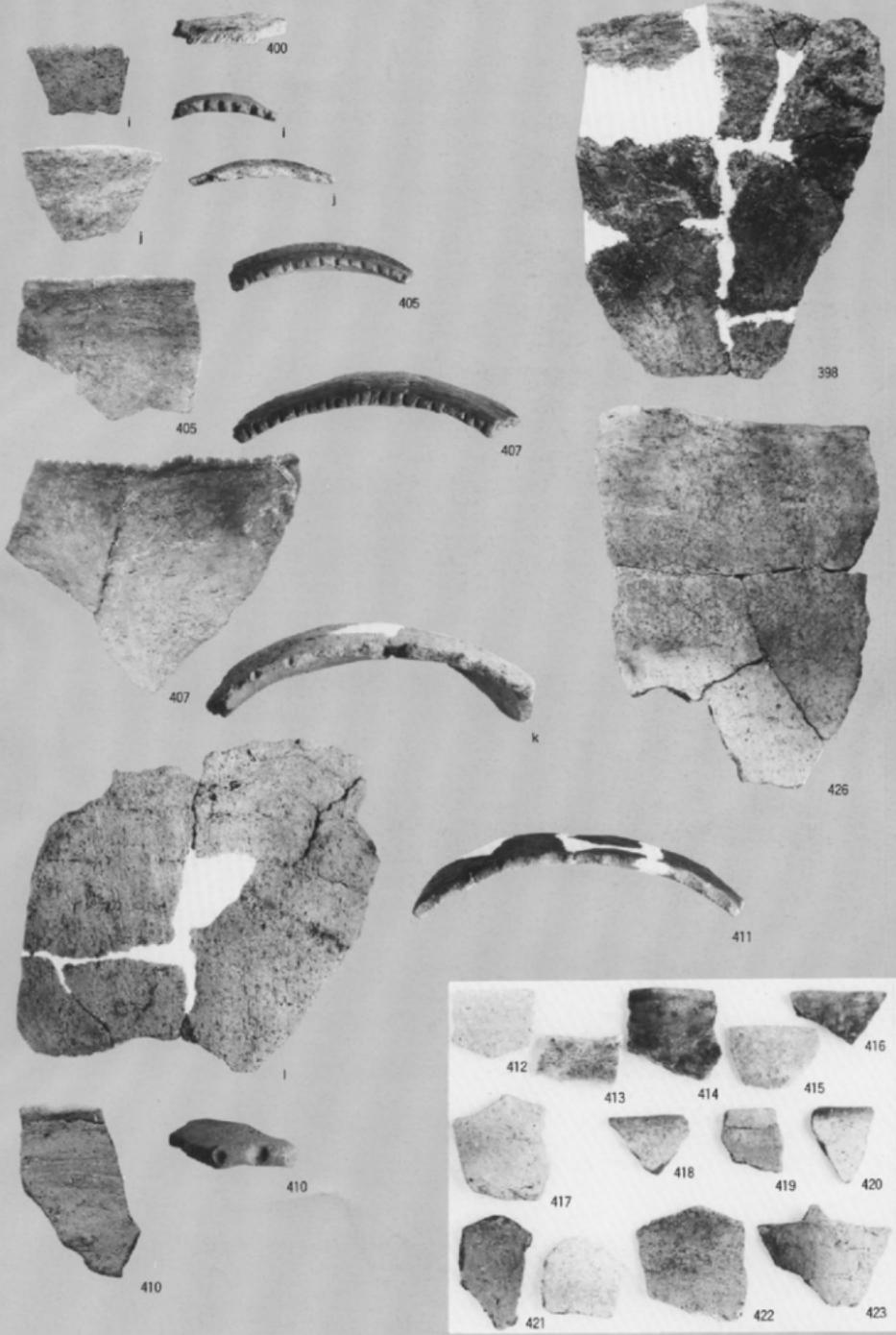
g

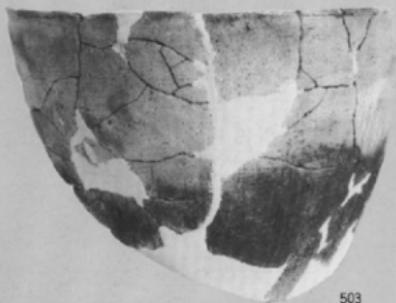


h



383





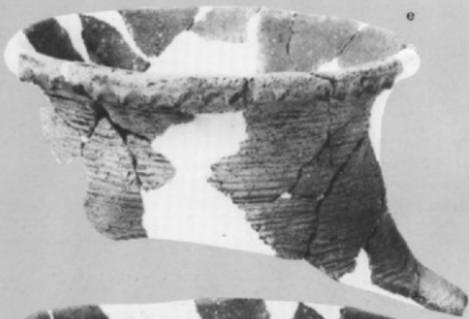
503



508



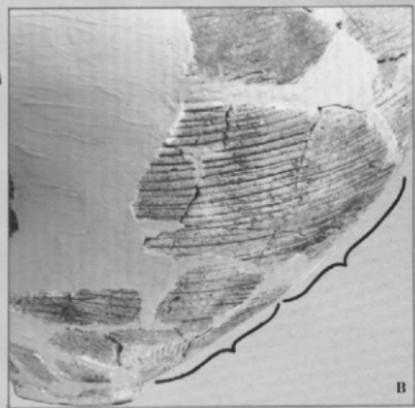
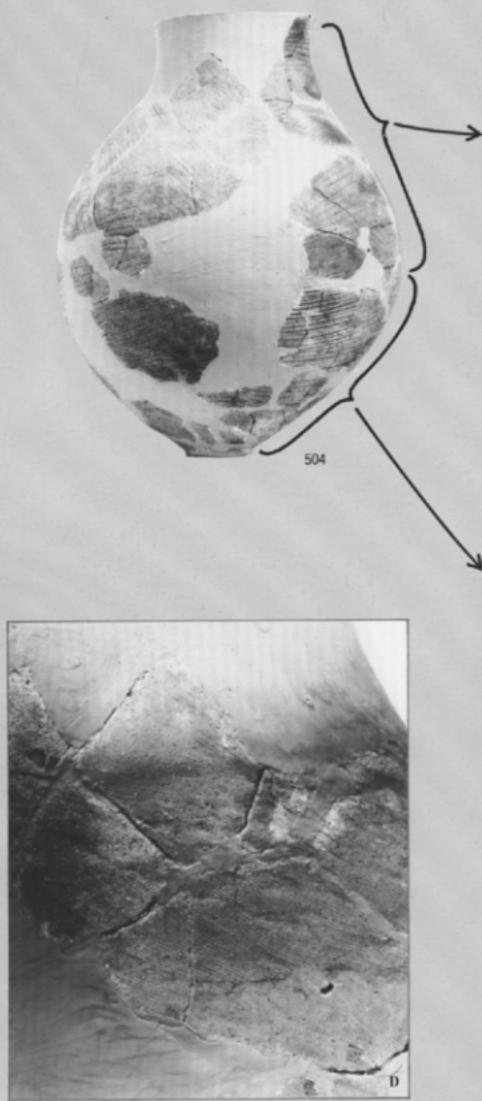
506



e



第32図 1

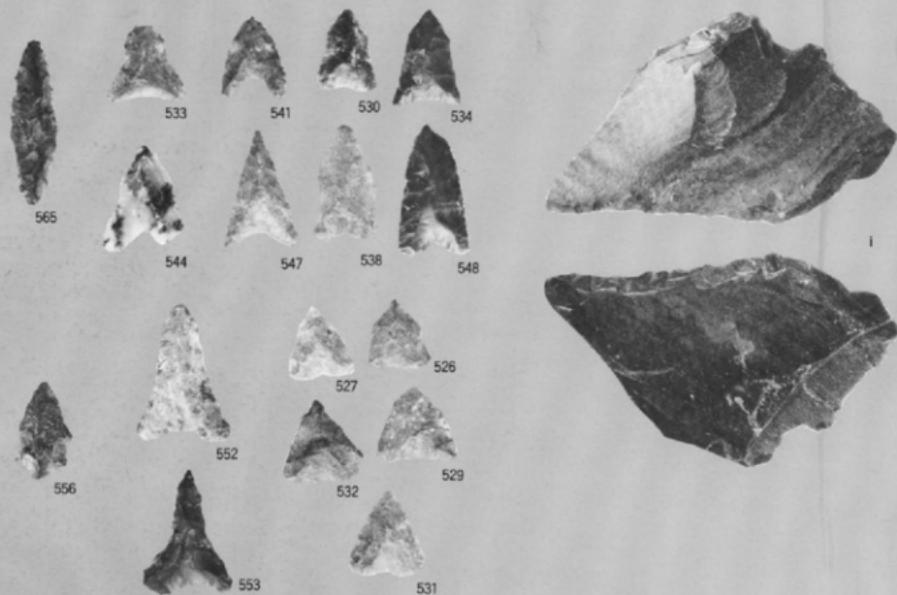


A : 二叉工具による羽状条痕が菱形状部 分(矢印)をつくって、相対している。

B : 底部から胴部にかけての調整、横位 条痕が深くシャープに施されている。

C : 底部付近には二枚貝原体の条痕が観 察できる。

D : 内面調整にはハケメが施されている。







674



673



658



672



677



675



685



684



688



686



687



697



693

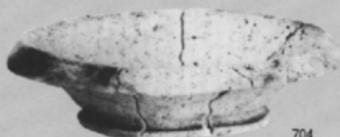


696



689

→ 外面に櫛描直線紋（擬凹線）が施されている。



704



712



722



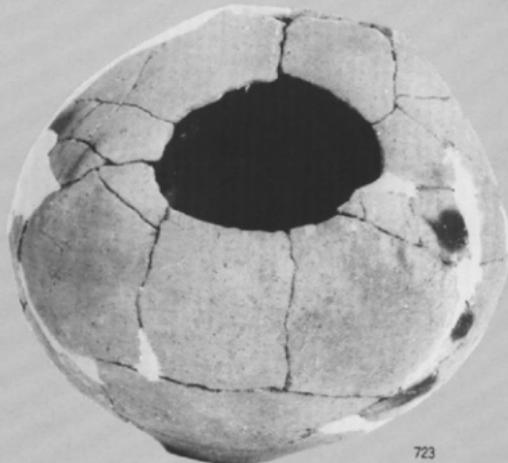
720



717



721



723



724



726



734



735



738



728



744



730



739



740



769



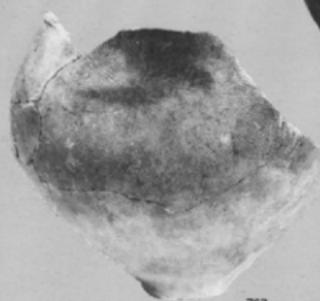
773



771



770



767



772



766



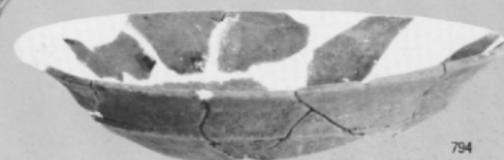
798



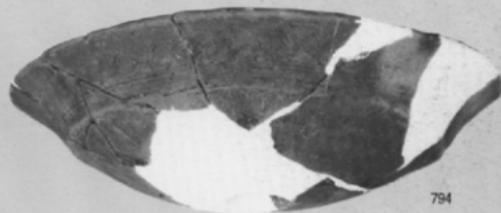
797



799



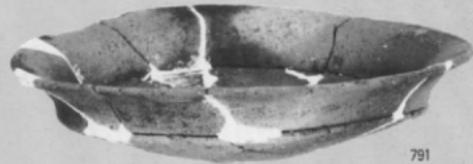
794



794



800



791



809



811



812



810



813



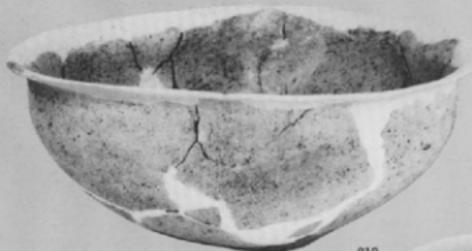
815



816



821



819



818



820



823



825



824



829



830



846



852



849



859



832



836



840



838



841



843



858



857



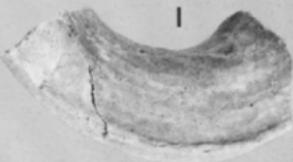
863



864



865



867



872



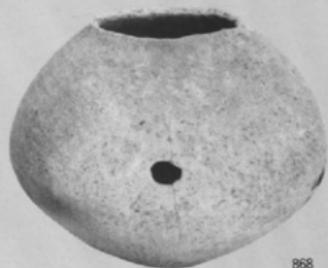
873



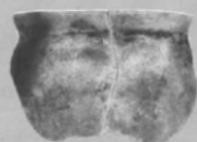
870



871



868



874



881



883



884



887



888



889





925



926



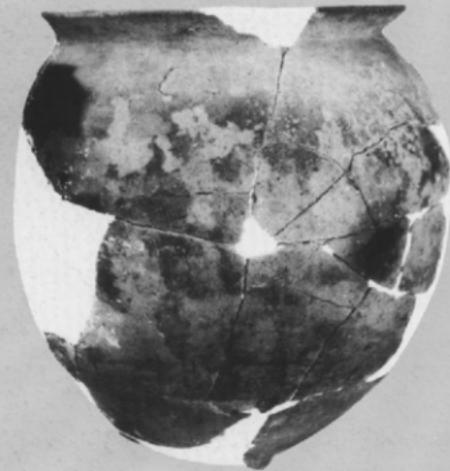
927



928



929



987



977



988



937



940



934



932



948



949



952



951



953



942



943



963



964



971



969



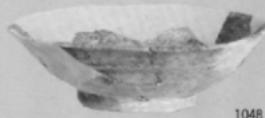
967



972



974



---

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第42集

## 東光寺遺跡

1993年3月31日

編集人　財團法人  
発行　愛知県埋蔵文化財センター  
印刷　東海プリント社

---